

研究・調査報告書

報告書番号	担当
509	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and breast cancer recurrence and survival among women with early-stage breast cancer: the Life After Cancer Epidemiology study. 早期乳がん女性における飲酒と乳がん再発、生存との関連 : The Life After Cancer Epidemiology (LACE)study	
執筆者	
Kwan ML, Kushi LH, Weltzien E, Tam EK, Castillo A, Sweeney C, Caan BJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Oncol. 2010 Oct 10;28(29):4410-6. PMID: 20805458	
キーワード	
飲酒、乳がん、再発、疫学	
要 旨	
<p>目的： 早期乳がん患者における、乳がん診断後の飲酒とその後の再発、死亡との関連を明らかにする。</p> <p>方法： 対象患者は、Kaiser Permanente Northern California 癌登録で 1997-2000 年に早期乳がんを診断され、診断後平均 2 年後に採用された、LACE 研究参加者 1897 人である。飲酒（ワイン、ビール、リカー）は頻度法食事調査により追跡開始時に調査された。ほかの予後因子を調整したハザード比(HR)と 95%CI を Cox 比例ハザードモデルにて算出した。</p> <p>結果： 平均 7.4 年の追跡期間中に 293 例の乳がん再発および 273 例の総死亡を認めた。958 人 (51%)が飲酒者（アルコール 0.5g/日以上）であり、大部分がワインを飲んでいて (89%)。非飲酒者に比べ 6g/日以上の飲酒者では、乳がん再発リスク (HR 1.35, 95%CI: 1.00, 1.83) と乳がん死亡リスク (HR 1.51, 95%CI: 1.00, 2.29) が上昇した。乳がん再発リスク上昇は閉経後女性 (HR 1.51, 95%CI: 1.05, 2.19) および過体重・肥満女性 (HR 1.60, 95%CI: 1.08, 2.38) で強かった。飲酒は総死亡リスクとは関連せず、乳がん以外の死亡リスクは低下させる可能性があった。</p> <p>結論： 乳がん診断後の週 3-4 drink 以上の飲酒は、特に閉経後女性と過体重・肥満女性において乳がん再発リスクを上昇させることが示唆された。しかし、アルコールによる循環器予防効果も示唆された。</p>	